

## 1. 圏域の概要

### (1) 水産業の概要

#### ① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

本圏域は館山市から富津市南部に至る範囲で、第3種船形漁港をはじめ、第2種3漁港など計21の漁港がある。漁業協同組合は、平成27年に岩井漁業協同組合と富浦町漁業協同組合が合併し岩井富浦漁業協同組合となった。また、平成31年には館山市内の館山船形漁業協同組合、館山市布良漁業協同組合、館山市相浜漁業協同組合が合併し、館山漁業協同組合となり現在7組合になっている。

#### ② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

圏域内の属地陸揚量(平成30年)は8,514トンである。圏域の主要漁業種類は、大型定置網漁業(44%)、中型まき網漁業(20%)、小型定置網漁業(13%)および一本つりや刺網等の小型漁船漁業である。また主要魚種は、いわし類(19%)、さば類(34%)、あじ類(11%)、ぶり類(7%)、すずき類(3%)である。

#### ③ 水産物の流通・加工の状況

陸揚量の約68%が地元向けであり、そのうち一般消費向けと加工向けが概ね半々となっている。当該圏域には6か所の産地市場が立地しており、うち、船形漁港、勝山漁港および保田漁港については、生産拠点漁港として位置付けている。

#### ④ 養殖業の状況

鋸南町勝山漁業協同組合が自営事業としてマダイ等の魚類の海面養殖を行っている。

#### ⑤ 漁業経営体、漁業就業者(組合員等)の状況

組合員数は2,412人であり平成26年より3割弱減少している。また、漁業経営体についても585であり、70ほど減少している。

#### ⑥ 水産業の発展のための取組

- ・(公財)千葉県水産振興公社、漁業協同組合により、マコガレイ、クルマエビ、ヒラメ、マダイ、アワビ、サザエの種苗放流を行い資源管理に努めている。
- ・竹岡漁港は市内の陸揚物の集約に対応できるように、自動製氷貯氷施設を備えた産地市場を整備し、市場機能の強化を図っている。
- ・船形漁港は市内の陸揚物の集約に対応できるように、衛生管理を強化した産地市場の整備に取り組んでいる。
- ・本圏域では、「竹岡つりタチウオ」、「鋸南町勝山漁協養殖江戸前真鯛」が千葉ブラ

ンド水産物に認定されている。

- ・保田漁港、勝山漁港、富浦漁港では漁業協同組合直営食堂、また保田漁港では水産物直売所も営まれており、水産振興と地域活性化に寄与している。
- ・保田漁港、富浦漁港、船形漁港ではプレジャーボート対策として、公示施設を指定して利用調整を行っている。また、保田漁港は陸上保管施設を有している。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

本圏域は入り江ごとに小規模な漁港が多く存在し、各漁港において施設の老朽化対策が課題となっている。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

今後、地元自治体や漁業協同組合と協議を進め、集約に向けた合意形成を進めていく。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	生産力向上型	設定理由；地域資源を活用し、直販、食堂、観光漁業等の6次産業の取組を行い、水産物の生産、供給の強化を図っている。
② 圏域範囲	館山市～富津市 竹岡漁港の範囲	設定理由；流通拠点漁港が存在せず、各産地市場から消費地へ直接出荷している。定置網漁業、一本つりおよび刺し網漁業主体の地域で構成する。
③ 流通拠点漁港	該当無し	設定理由；
④ 生産拠点漁港	勝山漁港、保田漁港、船形漁港	設定理由；勝山、保田漁港は登録漁船が50隻以上、属地陸揚金3億円以上の第2種漁港、船形は第3種漁港である。
⑤ 輸出拠点漁港	該当無し	設定理由；

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	8,041	圏域の登録漁船隻数(隻)	809
圏域の総漁港数	21	圏域内での輸出取扱量(トン)	0
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	-		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	なし
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	なし
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	なし
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	なし

## 2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

#### ① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

勝山漁港では港内静穏度の確保による陸揚作業の効率化や漁業者の高齢化に対応した使いやすい漁港施設の整備など、生産コストの縮減により競争力強化に取り組む。

#### ② 養殖生産拠点の形成

本圏域については養殖生産拠点を設定しない。

### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

#### ① 環境変化に適応した漁場生産力の強化

本圏域は藻場の消失が顕在化しているため、藻場の保全・回復に向けた取組指針(内房海域編)に基づいた藻場の回復対策を行い、統一した手法による継続的なモニタリングを実施することにより、アワビをはじめとした磯根資源の維持増大を図るとともに、マダイ、ヒラメ、マコガレイ、クルマエビ、アワビの種苗放流と資源管理を行うことにより漁獲量の増加に努め、持続可能な漁業生産を確保し、安定した漁業経営を図る。

#### ② 災害リスクへの対応力強化

勝山漁港では、高波対策に資する整備を行い、港内静穏度の向上による漁業活動の安全性の確保や陸揚げ機能の向上を進める。

また圏域内の漁港については既存漁港ストックの老朽化が進行していることから、予防保全の考え方にに基づき、緊急性の高い施設の長寿命化対策を優先的に実施し、高波・高潮、津波時の被災リスクの低減、持続可能な漁港インフラの管理を進める。

### (3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

#### ① 「海業」による漁村の活性化

- ・ 漁港の活用促進の支援(海業等の振興(漁業協同組合直営食堂：保田漁業協同組合ばんや、勝山漁業協同組合なぶら、岩井富浦漁業協同組合おさかな倶楽部、網納屋、館山漁業協同組合相浜亭、水産物直売施設：岩井富浦漁業協同組合大漁市場、道の

駅等))

- ・地域活性化の取組との連携（豊かな自然を生かした交流人口の増加(滞在型観光施設、海水浴、釣り筏、ダイビング、カヤック、海泊等)、観光地引網、遊漁船、プレジャーボート係留施設等)

漁業協同組合等、地元の意見を聞きながら、漁港施設用地や水域の有効活用について検討し、漁村の活性化に繋げる。

## ②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

- ・生活環境の改善（地元市による定住促進等との連携）

### 3. 目標達成のための具体的な施策

#### (1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

##### ①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
勝山	流通機能強化	農山漁村地域整備交付金（地域）	勝山	第2種	

- ・勝山漁港の沖北防波堤を整備することにより港内静穏度を確保し、陸揚げ作業の効率化による生産コストの縮減を図る。

##### ②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
なし					

#### (2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

##### ①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
内房（富山）	資源管理	水産環境整備

- ・内房地区富山工区において、魚礁による漁場整備の効果調査を実施する。

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
勝山	資源管理	農山漁村地域整備交付金（地域）	勝山	第2種	

- ・勝山漁港の沖北防波堤を整備することにより静穏域を創出し港内の海面養殖可能水域を拡大する。

**②災害リスクへの対応力強化**

地区名	主要対策	事業名	漁港港湾名	種別	流通拠点
勝山	安心安全	農山漁村地域整備交付金 (地域)	勝山	第2種	
外房 内房	安心安全 予防保全	水産物供給基盤機能保全	船形	第3種	
館山市	安心安全 予防保全	水産物供給基盤機能保全	下原	第1種	
保田	安心安全 予防保全	水産物供給基盤機能保全	保田	第2種	

- ・勝山漁港では沖北防波堤を整備することにより岸壁、泊地の静穏度を向上し安全な水産物の生産流通環境を構築する。
- ・船形漁港、下原漁港、保田漁港において、予防保全の考え方にに基づき、補修の緊急度や費用の平準化、縮減に留意しつつ、計画的に保全工事を実施し、漁港施設の老朽化対策を行う。

**(3)「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上**

**①「海業」による漁村の活性化**

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
なし					

**②地域の水産業を支える多様な人材の活躍**

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
なし					

**4. 環境への配慮事項**

圏域内は南房総国立公園に指定され、「鋸山」などの景勝地や岩礁地帯が続き、また、海水浴場等の観光地が点在している。事業の実施にあたっては周辺環境への配慮を行う。また、県営漁港内の外灯についてLED化を進める。

5. 水産物流通圏域図

別添

6. 当該圏域を含む養殖生産拠点地域図

該当なし

7. 漁港ごとの役割や機能分担および漁港間での連携の状況を示す資料

別添

8. その他参考となる資料

該当なし